

評価委員会総合評価

研究課題名：地上観測による大気要素の放射収支への影響の実態解明

評価委員

委員長：瀬上 哲秀

委員：三上 正男、中村 誠臣、齊藤 和雄、露木 義、山田 眞吾、
藤部 文昭、角村 悟、横田 崇、蒲地 政文、千葉 剛輝、井上 卓

評価年月日：平成 25 年 12 月 24 日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、放射観測の高度化に必要な技術基盤の開発及び雲・エアロゾルの放射影響の実態把握を目的としており、両副課題ともに着実に成果を上げている。特に、エアロゾルを含む放射計算技術を確立し、過去の観測データに適用して、長期的な日射変動とエアロゾル変動の関係を明らかにしたことは大きな成果である。また、スカイラジオメーターの較正技術を確立したことは、環境気象業務に資する重要な研究であったと評価する。

一方、研究全体としての方向性が見えにくい点や全般的に研究成果の社会へのアピールやインパクトに欠ける面も見られた。

査読論文は主著者の原著論文7編であった。基礎的な研究であることから、やむを得ない部分はあるが、今後一層の努力を期待する。

今後は、観測機器については競争的資金を活用しつつ、静止気象衛星ひまわりのプロダクト開発の基盤技術や放射スキームの改善に向けた気候モデル開発協力など、関連する分野や課題との連携を積極的に推し進め、より一層の研究展開を期待したい。その際には、放射をベースにした研究の方向性や、気候分野における放射強制力との関連性も明確にして欲しい。現在は、数値予報モデルにおける放射スキームの改良や、次期ひまわりのプロダクト開発などの面で放射研究に精通した専門家が切望されている状況にあることから、当該分野に研究の裾野を広げ、関係機関や研究者と連携を強化し、より積極的に業務貢献の道筋を探って欲しい。